

診療日時

土日も内視鏡検査の患者の利便性考慮
週4日診療所でスタッフも大勢応募

札幌大通胃と大腸の内視鏡クリニックは、その名のとおり消化器内科と内視鏡検査・治療に特化したクリニックだ。大学病院レベルの最新機器を導入するとともに、1万件以上の検査および治療実績を誇る福田遼院長が、鎮痛剤を使用した苦痛の少ない内視鏡検査を行っている。特筆すべきは、患者が受診しやすいように土曜・日曜日も診療を行っていることだ。「以前勤務していた診療所では土日の内視鏡検査のニーズが高かったので、患者さんの利便性に加えて、差別化戦略にもなると考えて決めました」と福田院長は話す。痛みが少ないうえ、土日にも受診できるということで、内視鏡検査や治療を必要とする働き盛りの世代には狙い通り好評。休診日は月、火、金、祝日で診療は週4日体制だ。開業する前は、週7日の診療体制を計画していたものの、

札幌大通胃と大腸の内視鏡クリニック

住所：〒060-0042 札幌市中央区大通西3丁目
せんばビル4階

●診療科目：消化器科

URL：https://odori-clinic.com/

その条件ではスタッフを集めるのに苦労したために、現在の週4日診療に変更したという。結果的にこれが奏功した。週休3日にした結果、優秀なスタッフが大勢応募してきたほか、7日体制だと必要になるシフト制を敷く必要がなくなったことで、労務管理が大幅に楽になった。週4日体制は、管理コストを含めて人件費を抑えることにもつながっている。福田院長は「結果的にですが、『患者様と従業員の幸せを追求するクリニック』という理念に沿う形になりました。今後は効率性を高めながら、札幌市内での大腸カメラ実施件数1位を目指したい」と強調する。



最新機器を揃えた内視鏡検査室

行動変容

薬使わないスマート降圧治療に注力
アプリ伴走で正しい行動の定着を目指す

相川みんなの診療所では診療の質を高めるために、高血圧治療補助アプリ「CureApp HT」を使った「スマート降圧療法」に力を入れている。これは、通院時に医師のアドバイスを受け、通院時以外は日常的にアプリが患者の生活に伴走することで、正しい生活習慣の定着を目指す、薬を使わない新しい治療法だ。スマート降圧療法の流れは次のとおりだ。まず、患者は診察を受けて血圧アプリをインストールする。最初の約2週間はこのアプリを使って、高血圧治療に必要な知識について学習する。その次に患者自らが「うどんの汁は飲まない」など、食事・運動・睡眠などに関する具体的な行動目標を立てて、それを実践し、行動を習慣化させていく。通院は月1回で、梶野真一院長は、その場にて患者が実践できたことや困りごとなどを受け止め、アドバイスをするほか、現在の課題の確認や次にクリアすべき課題の提案を行う。プログラムは6カ月で一旦終了するが、血圧記録などのデータは継続して共有が可能で、血圧手帳としても使用可能。個人差はあるものの、急な悪化は見られず、多くの人が

相川みんなの診療所

住所：〒458-0011
名古屋市緑区相川3-246-2

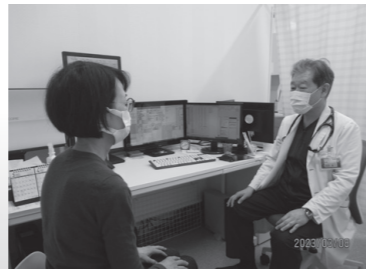
●診療科目：内科、糖尿病内科、消化器内科、小児科

URL：https://www.aikawa-minna.com/

が生活習慣の改善に成功し、血圧は安定しているという。梶野院長は「当院には管理栄養士がいますが、管理栄養士のいない診療所にとっては栄養指導の代わりに利用する価値もあると思います」と語る。



患者さんは院内でアプリをインストール



月1回の通院時に医師がアドバイスする

組織改革

「7つの習慣」もとに組織改革目指す
外部講師招いたリーダー育成研修

そらいろ耳鼻咽喉科センター北駅前院は2023年から、スタッフの教育研修の一環として株式会社ヴェルデのリーダー育成研修を採用している。これは「7つの習慣」(スティーブン・R・コヴィー著)をベースに個人の行動変化やチーム、組織全体の改革をめざす研修である。講師は愛知県で3つの診療所を展開する医療法人FUKUJINの木村みど理事務長が務める。研修プログラムは同法人で実施した診療所の経営改革をもとに構成されているため、「診療所の現場に刺さりやすい」と評判になっている。同院では月1回、木村氏を院内に招いて、ワークショップを含めた2時間程度の研修を委託している。内尾紀彦理事長は「実は同じ方向を向くことができなかつたために昨年、常勤スタッフが大勢離職してしまいました。人数が減ったために非常に厳しい状況に追い込まれましたが、

そらいろ耳鼻咽喉科センター北駅前院

住所：〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-2-1
ヴァンクールセンター北2F

●診療科目：耳鼻咽喉科、小児耳鼻咽喉科、アレルギー科

URL：https://www.senkita-jibika.com/

逆に『全員で同じ方向を向くようにするチャンス』と捉えなおし、人材育成に力を入れることにしました。ベクトルをあわせるうえで『7つの習慣』は有用です。また、木村さんは同じ耳鼻咽喉科で親近感があり、さまざまな悩みごと経験されているので、非常に勉強になっています。全員で『7つの習慣』を学んだ結果、『この行動は改める必要があるね』と指導したり、行動変容を促したりしやすくなりました」と説明する。教育研修に関しては、スタッフを連れて外部の研修会に参加するという方法もあるが、内尾院長は「外部研修は土日開催が多く、スタッフに『休みの時間を奪われている』と取られる可能性もあります。不平不満を持たせないためにも、研修は院内にて通常の勤務時間帯に行うのがベストだと考えています」と話す。

SDG s

カーボンオフセットLPガス導入
SDG s意識し地域にも良い影響を

SDG s推進の観点から環境に配慮した診療所づくりを進めている、医療法人ミライエ緑町診療所。2023年8月からはカーボンオフセットLPガスを導入している。カーボンオフセットとは、個人・組織の活動で二酸化炭素排出量の削減努力を行う際に、どうしても削減できない排出量について、他の場所での削減・吸収量等を購入することによって相殺するという考え方だ。近年、環境問題に取り組むため、これを採用する企業は増えている。猪熊良仁院長は「当院が積極的にSDG sを意識することで、患者さんや地域住民の皆様にも良い影響を与えることができる経営をしたいと考えています」と話す。環境配慮に伴うコストに関しては、導入前と比べてガスの単価自体は多少上昇したものの、同院では太陽光パネルによる再生エネルギーを利用していることもあり、院内の総エネルギーコストとして考えると増大するまでには至っていないという。また、このほかにも同院では開院当初から蓄電池を完備したり、プラグインハイブリッド自動車も導入したりしている。これら設備については環境配慮に加えて、災害対策としての効果も見込んでいる。たとえば、災害に伴う大規模停電等

医療法人ミライエ 緑町診療所

住所：〒066-0074 北海道千歳市緑町1丁目3-30
めでのちせ

●診療科目：内科、外科、小児科

URL：https://midoricho.jp/

による電量供給が途絶えたとしても、2・5日は自家発電で診療を継続できるようにしているという。「私たちはあなたの信頼できる地元の医師『まちのかかりつけ医』を目指しています」という理念の実現に向けた体制整備に余念はないようだ。



カーボンオフセットLPガス導入の証明書



災害時にも診療機能を維持するための機能を充実させている